

北加積地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
① 歩道拡幅と交差点の歩行者用信号	大島新地内の歩道拡幅や大島新交差点の歩行者用信号設置を長年、提言し続けているが、市側からは、県や公安委員会に対し、どのように要望したのか。実現に向けた進捗度は。	道路の規制標識や規制線、歩行者用信号等は県公安委員会の管轄で、市に全く決定権がありません。地元の声を県や県公安委員会へ粘り強く伝えています。歩道拡幅は「重点事業」として県へ要望中ですが、時間がかかるようです。信号機設置もハードルが高く、滑川警察署に加え県警本部長にも要望していますが、毎年10所近く希望しても設置に至るのは1カ所程度です。頑張って要望を続けます。
② 中滑川駅前	富山地方鉄道・中滑川駅の農協会館跡地は誰の土地なのか。	現状はJAアルプスと富山地方鉄道が地権者となっていますが、市長の命を受け、市の担当者が年内の取得をめざし、交渉中です。
③ 新川古代神街流し	「ふるさと龍宮まつり」の「新川古代神街流し」で、毎年大勢の方が踊り流してはいるが、魚津市の「せり込み蝶六踊り街流し」は遥かに賑やかで、滑川市の方は見劣りする。魚津市では踊りの腕前を競うコンテストの面もあり、盛り上がる要素がある。また、市内企業が大変協力的で、従業員に強制参加させる事業所もあると聞く。滑川市でも運営方法を見直し、より活発な「踊り流し」になるよう工夫を凝らしてほしい。	市や商工会議所、商工会議所青年部、青年会議所などが連携して行うイベントであり、実行委員会等の席で、抜本的見直しやマンネリ打破に向けたご意見を伝えます。魚津の「街流し」は官公庁・民間企業職員の参加も確かに積極的ですが、踊り好きな市民性もあるでしょう。本市では町内会の世話人自体が減少傾向です。かつて祭りの盆踊りは、男女の出会いの場でした。新川古代神は「街流し」の振り付けが単調すぎるとの意見も多いので、振り付けの見直し等も視野に、活性化に努めます。
④ 仲人を通じた婚活支援	「子ども第一主義」は大切だが、滑川市には、その子ども自体が少ない。背景には、未婚男女の増加がある。自分の意見では、かつてのように、地域に仲人がいないためだ。大人が積極的に世話をして、地元の若者同士を見合いさせ、くっつけないと、結婚する人は、これ以上なかなか出てこない。仲人役として、婦人会の力をもっと活用してほしい。	最近では婦人会を組織すること自体が難しいとされていますが、様々な方法を検討し、頑張っていきたいと思います。
⑤ 旧町部	旧町部が寂れているように思う。空き家が増えているようなので、町工場を誘致して、跡地利用を促進すれば良いのではないか。	旧町部の空き家対策は是非とも対応が必要ですが、実際に住んでいる人も多くおられ、空き家が「虫食い状態」で点在し、手が付けにくい状態です。さらに、旧町部は滑川市特有の「永代地上権」が設定された区域でもあり、問題を複雑にしています。設定区域の把握は進んでいますが、地権者・相続者の把握が難しい面もあります。土地家屋調査士の協力を得て、まずは永代地上権問題の解決に前進していきます。
⑥ 除雪	稲泉新地内で除雪が不十分な個所がある。車がすれ違えないほど道幅が狭かったり、やり方に雑な印象を受ける。また、地内には用水の法面も多くあるが、重機が法面すれすれを通り、弱まっていないか心配だ。	お話はよくわかりました。
⑦ 投票率の低下	市議会議員選挙の投票率が低下し、市議会が民意と遠ざかっているのではないかと危惧している。若年層の注目を集めるよう、インターネットを活用した投票や、若者の出馬促進など、選挙管理委員会だけでなく、市役所一丸で投票率の向上に努めてほしい。	低投票率は全国の自治体の共通課題です。かつては子どもが成人したら家族そろって投票所へ行ったものですが、最近は核家族化の進展で、そういう風景も少なくなりました。市選挙管理委員会では、直近の県議選で、選挙公報の配布方法を従来の新聞折り込みから、町内会を通じた全戸配布に改め、住民への喚起に努めました。また、青壮年層で特に低投票率が顕著なため、PTAの会合の場等でも呼び掛けました。自治体の取り組みには限界もありますが、今後も頑張ります。
⑧ 人口減少問題	過去1年間の人口増減を示す県の統計データによると、滑川市はマイナス92人と、同規模の県内自治体に比べ減少幅が小さく、「市の定住促進策が奏功した」と肯定的に評価することもできるが、結局は人口は増えていない。前年度実績を意識した次年度の目標値の設定など、しっかり目標管理し、高い意識をもって人口確保対策に取り組んでほしい。	昨年度作成したイメージアップポスターや定住促進ポスターが象徴していますが、滑川市は定住促進に大きく舵を切りました。市内の企業経営者への聞き取りでは、従業員の多くは市外からの通勤者ですが若者が多く、好条件なら滑川市に家建て、移住してくれる余地があります。「子ども第一主義」の各種施策に惹かれ、富山市の企業で働く若者が、滑川市で家建てた例なども聞かれます。手厚い子育て支援策を携えて、「売り込み」の企業回りをし、かなり手応えを感じています。今後も人口増加につながる様々な施策を展開します。